

関東インカレ 部便り

目次

1. 関東インカレ 講評
 - 1.1 監督より
 - 1.2 主将・女子主将より
2. 関東インカレ 試合経過
3. 選手の言葉
4. 試合結果
5. 自己記録更新者一覧
6. 2017年度部内五傑
7. 2017年度東大記録更新者一覧
8. 主務より

1. 関東インカレ 講評

1.1 監督より

監督・藤田靖浩

今回の関東インカレは男子が総合得点 23 点の 11 位、女子が 2 点の 28 位。男子は目標の一桁順位には惜しくも届きませんでした。昨年まで減り続けてきた得点がようやく反転、女子は 800M で高石が 7 位で学部生初の得点という快挙でした。

全体としては、100M の井上、4×100M リレー(小嶋、阿久津、井上、木下)、10000MW の後藤の入賞等、出場した選手は概ね大舞台で萎縮することなく、想定を上回る結果でした。また最終日は棒高跳で三宅が 5M10 で優勝を飾り、今後のシーズン、来年の関東インカレに向けてよい雰囲気を作ってくれました。

一方、出場選手そのものが少なく、一部昇格を目指す上で得点の積み上げには限界があったというのが大きな課題です。2 番手、3 番手の地力をあげることが七大戦、京大戦、そして来年の関東インカレに向けて必須となりますので、引き続き部員一同練習に励んで参りたいと思います。

四日間にわたる応援、ご声援、誠にありがとうございました。

1.2 主将・女子主将より

主将・近藤秀一

4 日間、例年と会場が異なり天気も不安定な中、応援に足を運んでくださりありがとうございました。今回の関東インカレは、現状の戦力を分析したところ 25 点が目指すことのできる水準であると判断しました。過去 5 年のデータを参照したところ、25 点であると 10 位程度が見込まれるので、チームの目標を「総合 10 位以内」と設定しました。

結果は、23 点、総合 11 位と目標をわずかに下回る結果に終わりました。下級生を中心におおよそ現状の力を出し切りましたが、チームを引っ張るべき 4 年生が結果を出し切れなかったのが残念なところです。また、そもそも新規の出場者を多く出すことが出来なかったことも反省点です。

今年の関東インカレは長期視点で一部昇格を目指すこと

を定めた上で臨みました。今回の反省を後輩たちに継承していくことが僕たちに残された仕事です。年々標準記録は上がっており、周りの2部校も戦力をより充実させている中で戦うことは決して容易いことではありません。だからこそ、考え抜いて行動し尽くした後、一部昇格できた喜びは何にも変えがたいものだと思います。少しでも後輩たちにいいバトンを渡すことができるように、勝負できるチームを仕組みや雰囲気などさまざまな点から追求していきます。七大戦と京大戦では優勝します。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

女子主将・高石涼香

OB・OGの皆様においては日頃よりご指導、ご鞭撻のほど誠に感謝しております。女子パートは今年の関東インカレには高石(4)のみの出場となりました。GWの記録会では藤原(4)が3000mSCで、内山(3)が走幅跳で標準切りを狙いましたが惜しくも標準には届きませんでした。しかし、関東インカレ出場が遠くにあるものではないと感じられる結果ではありした。とりわけ内山には来年以降の出場とそこでの活躍を期待したいです。

女子1部800mに出場しました高石は、今回で3回目でありかつ最後の出場となりました。過去2回阻まれた準決勝の壁を乗り越え、今年は決勝の場に立つことが叶いました。学部生女子としては初の関東インカレでの入賞となったことを素直に喜ばしく思っております。

この数年、関東インカレに女子部員が連続で出場を続けてきました。この流れを切らぬよう、女子パート一同より一層練習に励んでまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

2. 関東インカレ 試合経過

◎トラック種目

5/24(木)

9:30 男子2部混成100m

関東インカレの始まりを告げる、男子2部混成100m。東大からは2組6レーンに村井(2年)の出場。東大にとって良い流れを生み出すためにも非常に重要な種目。村井も、「確実に10秒台が出る状態にある。最初の種目である100mでトップに立つことが大事。」

と事前に語っており、大幅な自己記録更新に期待がかかった。

レース本番、1組のレースでは+1.5mと最高の風が吹いていたが、村井の出場する2組がスタートする頃には向かい風が変わってしまっており、コンディションが少し心配された。しかし、号砲が鳴ると向かい風を物ともしない力強い加速で他の選手を圧倒して50mまでに2番手と大きな差をつけてトップに立つ。終盤まで力むことなくその差を守りきって、10"96(-1.5)の1着でフィニッシュ。870点獲得。宣言通りに10秒台をマークし、最高の形でスタートを切った。

11:15 男子2部100m予選

男子2部100m予選は4組で行われ各組上位3着+タイム上位4人が準決勝に進出できる。東大からは4組3レーンに井上(2年)が出場した。井上はゴールデンウィークの記録会で10"77のPBをマークし関カレB標準を突破、資格記録では組で7番手ではあったものの、練習でも好調ぶりを見せており、予選突破が期待された。

リアクションタイムは0"134と組内トップ、良い反応で飛び出す。隣の2レーンの選手に加速局面で先行されたが、力む事なく落ち着いた走りを見せ、並走する形となった4レーンの選手を終盤の伸びでかわし、10"87の3着でフィニッシュ。準決勝進出を決めた。この時の風は向かい風1.4mであった。

15:20 男子2部4×100mR 予選

予選は4組5レーンに小嶋(4年)・阿久津(3年)・井上(2年)・木下(4年)の走順で出場。作新学大と学芸大が同じ組であり、厳しいレースが予想された。急な雷雨の影響で10分ほど遅れての出走となった。

1走の小嶋は、リアクションタイムこそ遅かったものの4レーンの学芸大を引き離す加速を見せる。続く阿久津、井上も順調な走りを見せる。作新学大には大きく前に出られたものの学芸大とはほぼ並ぶ形で木下へのバトンパス。このパスでやや時間がかかり、学芸大の先行を許す。猛追するも届かず、2位学芸大に0"01秒差、40"89の3着となった。

着順は3着ながら、41秒を切る好記録となり、記録上位で拾われて翌日の決勝進出が決定した。バトンパスに

は修正の余地があり、決勝ではさらなる好タイムが期待された。

16:10 男子 2 部 10000m 決勝

近藤(4年)の出場。箱根出場者の集う舞台で入賞を狙う。23℃の気温ながら湿度が78%ありやや走りづらいコンディション。

位置取りは争わず後ろから10番手の落ち着いた入りで1kmを2'52の通過。次第に集団が2つに別れる中で順位を上げて2kmを5'41の通過。リズムに乗りつつ8'35で3kmを通過し12位集団に位置どる。4kmを11'35で過ぎると12位集団の先頭に立ち追い上げを図る。順位を1つ上げて14'34でレースを折り返すと、後ろについていた選手が次第に離れて6kmを単独走の17'36で通過。前方の7位集団に追いつき気力を回復させながら20'41で7kmを通過。ピッチ・ストライドともに衰えることなく、満を持して7位集団の先頭に立ち8kmは23'42通過。その後1つ順位を上げるも間もなく後ろの選手たちのペースアップについていけず9kmを26'45、10位で通過。最後の力を振り絞って29'41"74全体11位でゴール。

惜しくも入賞を逃したものの昨年の13位を上回り関カレ自己最高順位での力走であった。外国人留学生在が5人出走する中で一時は入賞圏内・日本人2位で集団を牽引する堂々とした健闘を見せ、チームに勢いを与えた。

18:05 男子 2 部混成 400m

1組5レーンに村井(3年)の出場。天候は曇りで、数時間前に雨が降っていたため気温は落ち着いており、トラックが少し濡れてはいたもののコンディションとしてはまずまずであった。

展望としては、朝一番の100mのレースで自己ベストを更新した勢いそのままに400mでも自己ベストの更新に期待がかかるレースであった。また、2日目に繋げるためにも好タイムで1日目を終えたいところであった。

号砲とともに各選手が勢いよく出走。村井よりも外側を走る3選手は前半からかなりのハイペースな走りを見せたため、村井は最後の直線に入るまでにはかなりの差を広げられ終始追いかける展開となった。しかし、最後

の直線では苦しいながらもなんとか持ち堪え素晴らしい走りを見せてくれた。特にラストの50mでは、他の選手の足が止まるなか村井は最後まで大きくペースを落とすことなく、前を走っていた2選手と横並びでフィニッシュした。100mと同様に、50"66で自己ベストを更新した。

一日競技をしてきた中で自己ベストの更新は素晴らしいものだった。大きな舞台でしっかりと記録を残し自己ベストを更新する姿は、2日目の競技に大きな期待が持てるものであった。

5/25(金)

9:00 男子 2 部混成 110mH

2組3レーンに村井(3)の出場。初日を4位という好位置で折り返しての2日目の最初の種目、ホームストレートには強い向かい風が吹いていたが、持ち前のパワーを活かし、初日の100mでPBと10秒台を叩き出した勢いそのままに更なる上位進出を狙ってほしいところであった。

スタートは若干出遅れたが、向かい風に負けない力強い走りでもハードルを越える度に伸びていき、ラストでの9レーンの選手との競り合いにも勝って16"44の1着でゴール。この時の風は-5.1mであった。強い向かい風もあり記録はベストからかけ離れたものとなったが、しっかりと勝ち切って684点を獲得し、この種目を終えて5位と次につながる位置につくことができたレースであった。

10:30 男子 2 部 100m 準決勝

男子2部100m準決勝は2組で行われ、各組上位3着+タイム上位2人が決勝に進出できる。東大からは1組9レーンに井上(2年)が出場。下馬評を覆して準決勝に進出してきており、勢いそのままに決勝に進出することが期待された。この時間には競技場のホームストレートでは強い向かい風が吹いていたが、このコンディションを決勝進出への追い風としたいところ。

選手紹介ののち、号砲がなった。リアクションタイムは0"130と組でトップ。しかし周りの選手の加速が早く、始めの30mですこし遅れをとったように思われた。このことは本人にとっては想定内だったようで、力むことな

く走り続ける。後半で大きく伸び、トップを走っていた6レーンの選手と並ぶような形でフィニッシュした。写真判定の結果1着は井上と表示され、ガッツポーズする姿が見られた。-5.1mという強い向かい風の中、11'15というタイムで、決勝進出を決めた。このタイムは準決勝全体トップだった。

14:30 男子2部100m 決勝

5レーンに井上(2年)の出場。この日の午前に行われた準決勝を全体トップのタイムで通過した勢いをそのままに、一気に表彰台に上ることを期待された。午前と変わらずホームストレートで強い向かい風が吹いていることを考慮され、決勝はバックストレートで行われることとなった。

東大応援席の大きな声援を背に、スタート。リアクションタイムは0"139で2番目の反応。準決勝同様、序盤は両隣の選手に先行される展開となったが、走りが乱れることはなく、5番目の位置をキープしてフィニッシュ、記録は10"51で5位、この時の風は追い風4.4mだった。

惜しくも表彰台はならなかったものの、関東インカレ初出場で、しかも下馬評を大きく覆しての決勝進出、入賞、得点の獲得に、応援席は大きく湧いた。1日目、2日目の東大の良い流れを作る、素晴らしい活躍だったと言えるだろう。今後の対校戦での活躍、来年以降の関東インカレでの表彰台に期待がかかる。

17:40 男子2部4×100mR 決勝

決勝は3レーンに予選と同じ小嶋(4年)-阿久津(3年)-井上(2年)-木下(4年)の走順で出場。ホームで向かい風の方に強風が吹く中、井上はこの日100mの準決勝・決勝後の3本目、木下は三段跳競技中での出走となった。

小嶋がまずまずのスタートを見せ、各チーム譲らずバトンは2走へ渡る。1・2走間、2・3走間ともやや詰まったバトンパスとなり、阿久津、井上は懸命に走るも少しずつ遅れをとる厳しい展開となる。木下へのバトンパスは予選同様時間がかかり、追撃は叶わず。1位に0"86秒差、6位に0"20秒差をつけられ、41"03の7位に終わった。

入賞を果たし、対校得点に貢献できたことは大きな意味を持つが、一方で決勝では上位のチームに差をつけら

れる結果となった。走力を一層高めた上でのバトン技術の向上に成功すれば、さらなる好記録が期待できる。また、選手層の厚化による、競技重複回避の選択肢の獲得も望まれる。

18:15 男子2部混成1500m

6レーンに村井(3年)の出場。二日間かけて行われる十種競技最後の種目であり、村井は9種目終了時点で5176点の6位。8位とは100点差であり、入賞を死守すべく臨むレースとなった。夕暮れ時でやや涼しく、走りやすいコンディションでのスタートであった。

号砲が鳴り、総合得点7位の電通大の選手を意識したのか、村井は果敢に前に付けた。400mの通過は1'13。しかし、先頭がペースを刻む中、村井は徐々に後退し、中間走は苦しみながらの展開となった。800mを2'39、1200mを4'06で通過。ラスト300mは何とか力を振り絞り、5'07"25の12位でゴール。得点は518点を獲得した。

これにて全種目が終了し、村井は5694点の7位入賞。自己記録を更新した。初出場の関東インカレながら、堂々とベストパフォーマンスを披露し、大会を大いに盛り上げた。自己記録を更新した種目はいくつもあり、成長が顕著に見受けられる。村井は、今後の対校戦でもチームの主力を担ってくれることは間違いないが、視線はさらにその先に向いていることだろう。来年の関東インカレで表彰台に上がっている村井を見ることが、今から楽しみでならない。

5/27(土)

9:50 男子2.3部10000mW 決勝

男子2部10000mW決勝には堀江(4年)、後藤(3年)、千菊(2年)の3人が出場。昨年4位入賞の堀江に加え、後藤、千菊も実力者であるが、スタートリストには39分台から43分台の選手が名を連ね、入賞には43分台が求められる状況であった。少し蒸し暑さを感じる中でのスタートとなった。

堀江は最初、集団の中盤でスタートし、4'14の速いペースで1000mを通過した。その後4'21-4'26で刻んだが、3000mを過ぎてからは徐々にペースを落とし4'36-4'40となり、前の集団から引き離されていった。5000m以降

は4'35-4'37-4'31-4'38-4'34と粘りを見せた。フィニッシュタイムは45'19"58で11位であった。

後藤は積極的に攻め、最初の2000mを4'08-4'11で通過した。以後4'16-4'22-4'23-4'27-4'28-4'30-4'30とペースを落とした選手を次々と抜かしながらレースを進めたが、なかなか前の集団との差は埋まらなかった。ラスト1周で競り合いになると0.08秒差で勝ち切り、43'33"98の4位でフィニッシュ。ラスト1000mのタイムは4'14であった。

千菊は集団の中盤でスタートし、堀江の数人後ろの位置についた。4'16と速いペースで1000mを通過し、4'25-4'35-4'40とペースを落としていった。4000m以降は持ち直して4'38-4'38-4'40-4'35-4'37-4'35と4'40を切るペースで歩いた。フィニッシュタイムは45'45"95で14位であった。

男子3部10000mWには大学院2年の櫻井が出場。後方からスタートし、後ろ3人の集団の位置についた。最初の1000mを4'40で通過したが、徐々に集団からは引き離された。4'45-4'50で3000mを通過し、ペースを落とした2部の選手を着実に抜いていった。4000m以後は4'52-4'53-4'52-4'56-5'00-5'01-4'59で歩き、48'49"58の5位でフィニッシュした。

競歩パートは5点を獲得した。まだまだ得点を獲得しなかったが、東大の得点に貢献することができた。今回のレースは序盤の速いペースにいかに対応するかがカギであった。この反省を今後の対校戦に活かしていきたい。

10:55 男子 2 部 800m 予選

4組9レーンに坂口(4年)の出場。昨年は6着で予選落ちという結果に終わったが、今シーズンは4月下旬におよそ1年ぶりに800mで自己ベストを更新したほか、専門種目外の400mと1500mでも自己ベストを更新しており、確実に昨年よりも実力がついている。資格記録は組6位であるものの、亜大の鹿井(3年)以外の資格記録は拮抗しており、準決勝進出は十分に狙える組だった。また、天気は曇りで風がほぼ吹いておらず、800mを走るには良いコンディションだったため、好記録にも期待がかかる。

最初の100mで出遅れてしまい、ブレイク直後は最後尾となるが、バックストレートで盛り返して集団の中盤あたりの位置を確保する。1周目は全体的にハイペースな展開となり、坂口の400mの通過は54"8だった。鐘が鳴る

と先頭集団は更に一段階ペースを上げて後続を引き離しにかかった。坂口は必死に食らいつくも、先頭集団との距離は開く一方だった。バックストレートで4位につけたが、結局600m付近で大幅に減速してしまい、その後は2人に抜かされて1'58"38の6着でゴール。残念ながら予選敗退となった。

ハイペースな展開で600m地点までに先頭集団と差をつけられてしまったために持ち前のラストスパートを発揮することができず、準決勝進出を巡る先頭集団の勝負には絡むことができないままで終わってしまった。今回の悔しさをバネに今後の対校戦で活躍することを期待したい。

11:25 女子 1 部 800m 予選

1組4レーンに高石(4年)の出場。天候は曇り、バックストレートからホームストレートに向かう方向にやや強い風が吹いている。各組3着までと以降記録の良い4人が準決勝に進出できる。

両横の選手が欠場した中のスタートとなったがしっかりと加速し、集団の中ほどでのブレイク。バックストレートで外側から少し位置を上げ30"4で3番手と並ぶように200mを通過。集団が崩れ始める中、300mあたりでは更に2番手まで位置を上げ、62"7で400mを通過した。その後集団は縦長になり大きな動きもなく97"4の2番手で600mを通過した。残り100mでは後ろを確認して最後は流す余裕も見せ、2'12"37の組3着でゴール。堂々の3年連続となる準決勝進出を決めた。

15:35 女子 1 部 800m 準決勝

2組8レーンに高石(4年)の出場。天候は曇り。各組3着までと以降記録の良い2人が決勝に進出できる。

好調なスタートを切った高石は、最初の100mで外側のレーンの選手を捉えた。2位集団はほぼ横並びでブレイクをした。バックストレートで加速した高石は、30"4の3番手で200mを通過した。直後に2番手に上がった高石は、先頭のすぐ後ろの位置を守ったまま400mを63"8で通過した。その後500m地点あたりで一度先頭と2位集団6人の間が空きかけるが、バックストレートで再び2位集団のうち高石を含む4人が追いつき、97"0で600mを通過した。そこで先頭がスパートをかけ集団が

ばらけた。高石は残り 120m のあたりで 3 番手の選手に追いつかれ、しばらく並走するも最後は 4 番手の選手にもわずかにかわされた。結果は 2'10"92 の組 4 着。

自己ベスト及び東大記録であり、タイムによって学部生女子としては実に 34 年ぶりとなる関東インカレ決勝進出を果たした。

17:20 男子 2 部 4×400mR 予選

2 組 3 レーンに小嶋(4 年)-伊藤(3 年)-坂口(4 年)-井上(2 年)の走順で出場。短長を専門種目とする小嶋、伊藤が前半を走り、午前中に 800m に出場した坂口、100m で 5 位入賞を果たした井上を後半に持つてくるという、まさに総力戦のオーダーで決勝を目指すことになる。5 組あり各組 1 着と記録の上位 3 校が決勝進出というかなりシビアな戦い。2 組目は学芸大の 1 着通過が見込まれ、本校としては、ウェルネス大に食らいつき、2 着もしくは 3 着でゴールし、3 分 16 秒前半を出せれば決勝進出できるとの見込みでレースに臨む。

17 時を過ぎているが、気温もそこそこ高く、前日に比べると風もおさまっており、まずまずのコンディション。1 組で好タイムが続出したが、自分たちのレースに集中するのみ。1 走からエースを配置している以上、ここでウェルネス大に負けたらもう勝ち目はないと竹井コーチにプレッシャーをかけられた 1 走小嶋は、4 年の意地を見せたか、300m までは他大の 48 秒台の選手とも引けを取らない走り。ラスト 100m で少し疲れたが、それでもフラットレースなら 49 秒前半は出るラップの好走。2 走伊藤は 150m まで何とかウェルネス大に食らいつく。しかし徐々に引き離され、さらに千葉大にも抜かれてしまう。競り合う展開のマイルは初めてであり、難しい展開ではあったが、良くも悪くも 400m の持ちタイム通りの走りとなった。3 走の坂口だが、伊藤とのバトンパスで少しもたつき、前の千葉大学との距離を少し開けられてしまう。前半は少し苦しい走りとなったが、800m 選手らしさを見せ、ラストで猛スパート。ぎりぎりで千葉大学を躱し 3 番手でアンカー井上につなぐ。井上は、竹井コーチの指示通り、落ち着いた入り。200m 通過後、同時開催 3 部の東工大院、さらに千葉大にも一旦抜かされてしまう。しかし、ラストに力を残していた井上のスパート。さすがに 3 部 400m 優勝の東工大妻木は速かった

が、何とか千葉大を躱し 2 部では 3 着でゴールし、タイムは 3'16"72 と一度は表示された。しかし、3 走坂口の待機順序違反により本学は失格となり、記録を残すことはできなかった。

当初の見込みは外れ、多くの大学がチーム記録を更新した結果、決勝進出ラインは 3'14"64 とハイレベルになり、本校としては目標前後のタイムこそ出せたものの、それでは 2 部で戦えないということを思い知らされる結果であった。本大会のみを見れば、短距離個人種目の出場が 100m の井上のみに留まり、400m のシーズンベストで 50 秒を誰も切れない中、3'16"72 という記録は、失格となったものの実力を出し切れたといえよう。しかし、400m で誰も B 標準さえ切れないようでは戦えない。今回専門外の選手を 2 人も使わざるをえなかったことも含め、短長を専門とする選手は猛省し、まずは 1 人でも多く 49 秒台を出すことから始めていかなければならない。

5/28(日)

9:00 男子 2 部 ハーフマラソン 決勝

近藤(4 年)の出場。天候晴れ、気温 27.0 度、湿度 35%、あまり風のない中でレースは始まった。今回のコースは競技場をまず 4 周してから競技場の周りの周回コース 1.58km を 12 周し、競技場内に再び戻ってくるというものであった。また周回コースは箱根駅伝予選会における公園内のようなアップダウンが多い難コースであった。

最初の 400m を先頭が 63 秒という高速ペースで入り、近藤は序盤先頭集団からは離れてレースを進める。先頭は 5km を 14 分 39 秒で通過。近藤はそれに遅れること 20 秒の 14 分 59 秒、27 位で通過。その後、ペースがやや落ち順位が下がり始める。10km を 31 分 4 秒 37 位で通過。先頭集団との差が 63 秒に広がる。その後も何とか粘るも難コースに苦戦しペースが上がらない。15km を 47 分 32 秒の 37 位、20km を 64 分 43 秒の 40 位で通過。ラストで 1 人を抜き 68 分 22 秒の 39 位でゴール。

強い日差しとアップダウンに苦しめられ思わしくない結果となったが、今後の試合に期待したい。

13:10 女子 1 部 800m 決勝

3 レーンに高石(4 年)の出場。順大の池崎の実力が頭一つ抜けているものの、その他の選手は資格記録が拮抗し

ており、表彰台も十分に射程圏内だった。また、関東インカレが日本選手権の標準切りの最後のチャンスであり、日本選手権 B 標準(2'09"80)切りにも期待がかかる。

スタートからハイペースな展開でブレイク直後は集団の中に囚われそうになったが、上手く抜け出して順大の池崎と山梨学大の戸谷を除いた3位以下の集団の先頭に立った。第2曲走路で3位以下の集団は先頭集団との差を縮め、高石は3番手を維持したまま400mを61"7で通過した。残り1週の鐘が鳴ると順大の池崎が飛び出した。高石も1人かわして2番手につけるが、池崎にどんどん引き離されて500m過ぎで減速してしまう。バックストレートで4人に抜かされ、必死に耐えるもホームストレートでまた1人に抜かされて、結果7位(2'13"52)でゴール。2点を獲得した。7位という順位は関東インカレにおける東大女子の歴代トラック最高順位を更新しており、また東大女子の学部生が関東インカレで得点を獲得したのは史上初のことである。表彰台に上ることはできなかったが、関東インカレの決勝という大舞台でも周りに流されずに自分の得意とする先行逃げ切り型のレース展開に持ち込んで勝負をしており、目の離せないレースとなった。2日間に及ぶ予選・準決勝・決勝での高石の健闘は東大陸上部の歴史に残るものといえるだろう。9月の全日本インカレでの更なる活躍を期待したい。

◎フィールド種目

5/24(木)

10:00 男子2部3部砲丸投 決勝

男子2部3部砲丸投には八木澤(4年)と加藤(M1)の出場。天候は快晴で、気温も25度を超す中、競技が行われた。八木澤、加藤はともに初の関東インカレの出場であり、どちらも11m台の記録に期待がかかっていた。

同時に進行していた1500m走の関係で、少しの間サークル横で待機した後の八木澤の1投目は10m39であった。上体が突っ込んでしまい捻りによる力が発揮できていなかった。加藤の1投目はグライドが滑らかであったものの投射角が低く9m92であった。八木澤の2投目は1投目と比べて砲丸を強く押し出せてはいたが、グライドで足が伸びず窮屈な投げとなり10m30であった。加藤の2投目は10m38と、あまり1投目と比べて伸び

なかった。八木澤の3投目は、3投の中でグライドのキレが一番であったが最後の突き出しが弱く、弾道が低くなってしまい10m39であった。加藤の3投目はグライドの伸びもよく押し出しまでスムーズにつながった投げであったが、捻りによるタメがつかれず10m93と惜しくも11mに届かなかった。

今回は入賞のラインが13m19と非常にレベルの高い大会であったが、八木澤、加藤、両者ともに対校戦での出場機会が残っているのでまずは自己記録の更新と11m台の記録に期待したい。

10:30 男子2部混成走幅跳

村井(3年)の出場。混成競技の2種目で、村井の得意種目であり期待も高まる。天気は晴れで、気温も高く、良いコンディションの下での競技となった。

1本目、持ち味の助走スピードのまま勢いよく踏み切り、記録は6m71。この時風は+1.1mだった。2本目は、踏み切り板よりさらに手前で踏み切ってしまい、記録は6m13。この時風は+1.8mだった。3本目は、助走を上手く調整することができず、ファールだった。結果は6m71(746点)で3位だった。

3本とも、助走を上手く踏み切り動作に活かすことができず、目標としていた7mの大台には届かなかった。100mの結果が良かっただけに残念ではあるが、総合1位を保ち、良い流れのまま、次の種目に向けて気持ちを切り替える。

13:00 男子2部混成砲丸投

男子十種競技砲丸投には村井(3年)の出場。試技順は23番目で最後であった。1種目目の100mにて勢いづいた村井にとって、ここで流れを切りたくない状況であった。天候もよく、コンディションは抜群。砲丸投においても自己記録の更新が期待されていた。練習投擲を行う中でも9mのラインを大きく越えてきている。10mも夢ではない状況であった。

1投目の記録は9m42であった。サークルが滑りやすかったためグライドで大きく勢いにつきすぎていたように見えたが、うまく調整し9m40を越えてきた。

2投目の記録は8m90であった。1投目で記録を残すこ

とができていたため、安心して投擲準備を行えているように感じられた。しかし、1投目より左肩の開きが大きく、記録を伸ばせなかった。

3投目の記録はなし。緊張のためか砲丸が右に流れてしまい記録を伸ばすことが出来なかった。

結果は9m42で451点の獲得となった。十種競技出場者の中では8位の記録であり、今回の7位入賞に着実に貢献していた。競技後の話からも本人はまだ記録を大きく伸ばす可能性を感じているようであった。サークルへの対応が出来なかったと若干悔いが見られるようだったため、今後の試合の中でより自己記録を伸ばし、来年度の関東インカレ、および各対校戦での活躍を期待したい。

15:30 男子2部混成走高跳

村井(3年)の出場。走高跳は、十種競技の1日目に行われる種目の内で4番目の種目であり、また、1日を通して気温も高かったため、かなり疲労が溜まってきているようである。ここまでの3種目(100m、走幅跳、砲丸投)で村井は2067点を獲得しており、全体で3位の得点である。

1m60から試技が始まり、村井の出番が回ってくる。1跳目はバーが落ちて赤旗が上がってしまった。続く2跳目、再びバーが落ちてしまい、東大陸上部の応援席にも緊張感が漂う。そして3跳目、緊張感に打ち勝ち、大きくバーの高さを超える跳躍をして白旗が上がり、大きな歓声が上がった。この時点で464点は確実に獲得することができた。その後、1m65にバーの高さが上がり、挑戦するものの、3跳ともバーが落ち、赤旗があがってしまい、走高跳の競技を終了した。そのため、最終的な結果は1m60で464点を獲得し、4種目目までの総合得点は2531点であり、全体で7位の得点となった。

走高跳が終了して、総合得点が全体7位となってしまったが、まだ入賞圏内に入っているため、これからの種目に全力を注ぎ、最後まで闘い抜いてほしい。

5/25(金)

11:35 男子2部混成円盤投

十種円盤投には、村井(3年)が出場した。グラウンドコンディションは曇りで気温は程よく暖かった。ただ風が強くまた向きも不安定な日であった。

1投目、村井は慎重に記録を残しにいくために、立ち投げで投げた。立ち投げとしてはよい結果となり、二投目以降に期待を持たせる内容となった。この記録は21m95であり、村井の円盤の自己ベストでもあった。

2投目では、ターンを入れた投げにして、円盤にスピードが加わって、飛距離自体は伸びたように見受けられたが、リリースの瞬間の力の入れ具合でか、円盤が大きく右に逸れてしまった。結果はファールであった。しかし、円盤自体はきれいに飛んでいたため3投目で、上位の選手に食らいついていくことが期待された。

3投目、村井は2投目から修正しきれず、2投目と同じように、円盤が大きく右に逸れてしまい、ファールとなってしまった。投げる際に体が開くのが少し早かったように見受けられた。

結果としては、1投目の記録である、21m95が記録となり、13位に終わった。しかしこれは立ち投げの記録であり、村井が円盤投の練習を積めるようになれば、すぐに更新されるであろう。課題のターンをこなして、大幅な自己ベスト更新が望まれる。

12:00 男子2部混成棒高跳

村井(3年)の出場。混成競技の8種目めで、強い追い風が吹いている。天気は晴れているが、突風が心配される中での競技となった。

2m70をパスして、3m00への挑戦1本目、強風によりバーが落ちてしまい、やり直しとなる。仕切り直しの1本目は惜しくもバーに触れ、失敗したが、2本目は難なく成功した。続いて3m30への挑戦1本目、余裕のある跳躍を見せ、見事に成功。3m60に挑戦するも、思うように身体が浮き上がらず、3本とも失敗に終わる。結果は3m30(431点)で7位だった。

3m60への挑戦3本目に失敗し、自分の試技が終わって、応援席にいるチームメイトに向かって手を合わせ謝る姿が印象的だった。もっと記録を伸ばしたかった、という思いだろうか。残り2種目、切り替えて最後の力を振り絞る。

15:30 男子2部混成やり投

村井(3年)の出場。これまでの8種目の合計得点で入賞圏内に位置しており、40mあたりで無難にまとめていき

たいところ。

この日は強い向かい風が吹いており、いかに槍先を低く抑えることができるかがポイントとなった。1投目は39m67を記録し、もっと槍先を低く抑えられれば40mを越えてくることが期待された。しかし、2投目は槍先が上を向き右側にそれてファール。3投目でもそれを修正できずにファール。39m67で競技を終えた。全体の13位で437点を獲得。全体7位で最後の種目、1500mに臨む。

15:35 男子2部三段跳 決勝

晴れて気温も高いが、風がかなり強い。三段跳のピットでも非常に強い追い風が吹いている。

平木(4年)、木下(4年)、星野(1年)の出場。試技順は平木が2番目、星野が29番目、木下が33番目だ。かなり強い風が吹いている中での1跳目、平木は13m02の記録を出した。続いて星野、木下が跳躍するが、両者ともにファールとなってしまった。2本目の跳躍もやはり風が強いが、平木が14m13を跳んだ。その後、風も少し穏やかになり、星野は14m00の記録を出した。木下は14m86を跳び、2回目終了時点で6位の記録を出した。期待のかかる3本目、平木は14m03を跳んだが、惜しくも記録は伸びず、24位で競技を終了した。続いて星野は14m04を跳び、2跳目よりも記録を伸ばしたものの、26位で競技を終了した。木下は3跳目に14m93の記録を残し、6位でエイトに残ることができた。4跳目以降の試技に期待がかかり、応援席も盛り上がる。だが、木下の4跳目はファール。続いて5跳目、惜しくもわずかに足が踏み切り板を越し、ファールになってしまった。ここで、木下は4×100mリレーの4走として出場するため、競技を終了した。最終的な結果は、木下が3跳目の14m93を決勝記録として、7位入賞で2点獲得。

木下が見事入賞することができ、チーム全体の士気もかなり高揚している。また、平木も3跳とも記録を残すことができ、星野も1年生で関東インカレ初出場ながら、記録を残すことができている。今後の跳躍パートの活躍・成長が楽しみである。

5/26(土)

10:00 男子2部円盤投 決勝

男子2部円盤投には4年の佐竹が出場した。ランキングではトップ8のラインがおよそ39-40mと予想されていた。これに対し彼のベストは35m周辺だったので、ランキング上では入賞は厳しく思えるが、最近調子が非常によかったため期待の持てる一戦であった。

試合当日練習投擲から35m付近まで持っていき、好調のまま試合当日まで来れた様子であった。そして競技が開始され、1回目の試技が始まった。全体的に記録は低調でベスト近くまで持っていている人がほとんどいない中で、佐竹の1投目は33m46。まずまずの滑り出しであった。2投目も全体として調子は上がらず佐竹の順番が回ってきた。佐竹の2投目はファール。そして3投目が回ってくる。この時点で入賞ラインは36m18。十分に越えられる可能性のあるラインであった。しかし残念ながら3投目もファールに終わってしまい予選敗退となった。

入賞ラインが手の届く範囲であっただけでもったいなという印象が残る試合となってしまった。しかし、まだシーズンは始まったばかりである。七大戦や京大戦での彼の活躍に期待したい。

12:00 男子2部走幅跳 決勝

東大からは木下(4年)と栗原(2年)が出場。曇り空に風が吹き午後にしては少し涼しい中で競技が行われる。木下は4×100mリレーの予選・決勝に出場し非常に良い走りを見せていたため、この種目でも良い記録が期待される。栗原は膝に怪我をしているため無理をしないように跳ぶとのこと。

1本目の栗原は大きく跳んだがわずかに足が出てファール。木下は何かか噛み合わなかったのか、不自然な着地をしたが6m75cmの記録を出す。この時点でトップ・エイトのラインは6m83cmで両者に可能性があり期待がされる。

2本目の栗原は怪我を感じさせない跳躍をし、6m85cmの記録を出す。また木下はファール。エイトの記録は6m97cmでまだ二人とも可能性がある。

3本目、栗原は跳ばずに走り抜ける。木下は再びファールをしてしまい悔しい表情を見せる。

結果、両者ともに4本目以降を跳ぶことはできなかったが、栗原は怪我の影響を受けていて、また木下は噛み

合わずにファールを出していたため、どちらも本来の実力を発揮できてはいなかっただろう。今後の活躍が期待される。

5/27(日)

9:00 男子3部ハンマー投 決勝

男子3部ハンマー投には鍵本(M2)の出場。非常に天候のいい中、流通経済大院などの選手がいるハイレベルな3部の中でどれだけ記録を伸ばせるかというところ。

練習投擲では軸がブレてしまっており不安に思われたが流石の落ち着きで望んだ1投目、丁寧な投げで40m18といきなり40mを超えてくる。更に伸ばしていきたい2投目は上体が突っ込んでしまいファール。3投目立て直すも39m02と、1投目の40m18を超えられずに4位で競技を終えた。

今季京大院の選手が50mを超えている様に、院生という忙しい中でもぜひ自己記録を更新して貰いたい。

9:45 男子2部棒高跳 決勝

三宅(3年)が出場。晴れて日差しが強く、27度の気温のわりには暑さを感じさせる中で競技が行われる。先月は不調が心配されていた三宅だが、今月初めには5m10の記録を出していたため良い結果が期待された。三宅はもうすでに何人かの選手が試技を終了している中、4m60を余裕の跳躍でクリアし試技を開始する。続く4m70をパス、4m80では応援に微笑む余裕を見せてからクリアをする。

ここで風向きからピットが逆側に変えられ、バックストレートと並行する向きに跳躍が行われる。4m85をパス、4m90の1回目で一度失敗するも、高い修正力を見せ2回目では完璧にクリア。4m95は選手全員がパスをしたため行われず、5m00の試技が行われる。三宅は一度失敗するも、タイマーに不備があったため無効試技となり、公式の1本目でクリアをする。この時点で残る選手は2名。5m10、三宅は1回目でうまく抜け成功。もう一人の選手がクリアできなかつたため、この時点で優

勝が決まる。自己記録の更新を目指す5m20は3回とも上がりきらず失敗となったが、この場で跳べたことで次に繋がるだろう。

三宅は関東インカレの場で優勝し東大に8点の加点をすることができた。高い実力を発揮することができた三宅の今後の活躍がますます期待される

3. 選手の言葉

短距離2年 井上昂

(100m,4×100mR,4×400mR)

今回、両リレーと100mに出場させていただきました、短距離2年の井上です。両リレーは決勝進出、100mは準決勝への進出を目標に置いて試合へ臨みました。4×100mRは順当に走れば決勝に進めると踏んでおり、4×400mRと100mは当落線上よりやや下あたりの実力でした。

100mと4×100mRは調整もうまくいき、結果として両種目で決勝に進出することができました。特に準決勝では、強い向かい風の中でも実力で上回る選手を相手に最後まで力むことなく走れました。この大会を通して新たに力むことなく走る技術を身につけられたように思います。

反省として、決勝の2レースや3日目に行われた4×400mRでは力みや疲労もあって自分の思うようなレースができませんでした。今後の課題としてベースアップはもちろんのこと、力むことなく複数本走れる走力が必要であると痛感いたしました。七大戦での総合優勝に向けて今後一層精進して参ります。応援よろしくお願いたします。

混成3年 村井輝

(十種競技)

男子2部十種競技に出場させていただいた村井です。結果は7位入賞で、対校得点を2点獲得できました。

今回は冬練で腰と手首を痛めてしまったこともあり、跳躍や投てきの練習があまりできず、技練不足の中での本番となりました。結果、練習は嘘をつかず、100m400mといったスプリント系は大幅に自己ベストを更新出来たものの、フィールドを中心に不本意なパフォーマンス

となってしまいました。

ただその中でも周りが怪我や暑さ、NMなどで崩れていくなか、最低限踏みとどまり入賞という結果を残せたこと、また東大トップバッターであった100mで10秒台を出し、東大にいい流れを作れたことには満足していません。

今回の結果もあり、ここからの七大戦を中心とした対校戦、そして来年の関カレでは得点をとってることがより求められてくると思うので、しっかり練習をつんで、期待に応えられるよう頑張っていきたいと思います。最後に2日間応援サポート本当にありがとうございました。

短距離4年 小嶋健太郎 (4×100mR, 4×400mR)

個人400mで標準記録を切れなかったのも、マイルリレーだけでなく四継にも一走として出場することになった。四継もマイルも決勝進出が期待されたにも関わらず、新鮮なメンバー編成だった為、実力が分からず本番一発勝負となり、大きなプレッシャーを感じていた。しかしスタートラインに立った時には、応援の盛り上げの力もあり、思い切りよく走る事が出来た。特に四継の決勝の舞台はチームでトラックを独占している贅沢が感じられ、最高に気持ちよかった。しかしどちらも結果は悔しさの残るものになった。木下に三段跳の最後の跳躍を犠牲にしてもらったにも関わらず、4継決勝では事実上最下位。井上には200mの個人出場を犠牲にしてもらったにも関わらず、マイル決勝進出には1秒足りなかった。自分は四年生で最後の関東インカレなので、来年に向けて直接貢献することはもう出来ない。しかし、チームを残り半年引っ張る事で間接的にでも貢献し、勝手ながら後輩に関東インカレで表彰台に上がるという夢を託したい。挑戦させてくれてありがとうございました。

長距離3年 近藤秀一 (10000m, ハーフマラソン)

10000mとハーフマラソンに出場させていただきました。練習は10000mに向けたもの中心で組みました。練習のタイム自体は最高の水準であったものの、記録会に調子が合わず実戦不足の面で不安がありました。

初日の10000mは留學生がハイペースで先頭を引っ張ると予想して、後ろから追いつけるプランを立てました。プラン通りに走り、落ちてくる選手を拾っていき、終盤近くは6位集団を引っ張る形まで順位を上げることができました。しかし、先頭を引っ張って疲労したことで心のタメができず、ダラダラとレースを終えてしまいました。下馬評を大きく上回ることはできたので力を出し切れたので入賞できなかった点は悔しいです。

4日目のハーフは10000mの疲労がやや残る中で臨みました。暑くてアップダウンのある厳しい状況下で最初の5000mを15分で入りへろへろになりました。先頭はもっと速いペースで入っていた中で垂れたので単純に力不足でした。10000mの疲労がうまく取れなかったことが半分、ハーフマラソンの対策があまりできていなかったのが半分の敗因でした。

自分は同じ走力の選手に比べて身体の使い方がかなり下手くそです。詳細は割愛させていただきますが、連戦に対応できないのも、使うべき筋肉を使えない走りをしているからだと考えています。安定して結果を残すため、更にステージアップするために当面は身体の機能向上をテーマに練習に打ち込んでいきます。予選会までには別人のような走りができるよう頑張ります。これからもご支援ご声援の程、よろしくお願いいたします。

跳躍3年 三宅功朔 (棒高跳)

これは跳べる、という確信が生まれる時がある。体調、風、雰囲気、それぞれが噛み合っただけの速度で体が動く。ポールが吸い込まれるようにボックスに落ちていき、しなったポールから経験したことの無いような反発が突き上げる。勝負がかかる試合の勝負どころでしか味わうことのできない感覚、陸上競技の醍醐味であるが、5m10に挑戦する時にかなり近い感覚を味わうことができた。

しかし、今年のシーズンインは散々だった。冬は跳躍練習をしないため春先の跳躍練習は毎年怖いのが、今年はずっとなく跳躍のイメージが湧かず怖くて跳躍できなかった。六大戦でやっと突っ込めるようになったものの、その後も跳躍練習はあまり積めずかなり不安定。5月に入って日大競技会で5m10を跳んでから

は少し恐怖心が和らいだが、関東インカレで同じような跳躍ができるとも限らない。期待と緊張が混じった状態で試合に臨んだ。その中で競り勝てたのは自信になった。

残りのシーズンはもう恐怖心に追われることは無いと思う。6月の個人選手権で立ち位置を把握して、9月の全日本インカレで入賞を目指す。入賞には5m30が必要になると思うが、同時にこれは日本選手権のA標準でもある。おもしろくなってきた。

4. 試合結果

第97回関東学生陸上競技対校選手権大会

男子2部 100m

予選(4組3着+3)

4組(-1.4)

3 井上 昂 東大 10"87

準決(2組3着+3)

1組(-5.1)

1 井上 昂 東大 11"15

決勝(+4.4)

1 外川 天寿 国武大 10"42
 2 青柳 明日翔 東農大 10"43
 3 中野 彬徳 横国大 10"44
 4 山田 寛大 東学大 10"48
 5 井上 昂 東大 10"51
 6 白石 幸大 東農大 10"59
 7 山縣 史博 東農大 10"61
 8 東川 隼人 立大 10"65

男子2部 200m

予選(4組3着+4)

4組(-1.6)

井上 昂 東大 DNS

決勝(+6.0)

1 佐藤 風雅 作新大 20"84

2 中野 彬徳 横国大 21"15
 3 青柳 明日翔 東農大 21"18
 4 和西 玲旺 駿河大 21"42
 5 東川 隼人 立大 21"42
 6 若林 康太 駿河大 21"45
 7 狩野 遼太郎 東経大 21"56
 8 飯島 駿 駿河大 22"33

男子2部 400m

決勝

1 若林 康太 駿河大 46"70
 2 工藤 大晟 駿河大 47"20
 3 佐藤 風雅 作新大 47"23
 4 飯島 駿 立大 47"42
 5 星野 蒼太 東経大 48"09
 6 小濱 樹 駿河大 48"33
 7 村山 大樹 東経大 48"82
 8 大坪 未樹 東農大 48"92

男子2部 800m

予選(5組2着+6)

4組

6 坂口 諒 東大 1'58"38

決勝

1 佐藤 大輝 平国大 1'52"88
 2 佐々木 亮介 国学大 1'53"67
 3 鹿居 二郎 亜大 1'54"00
 4 増井 大介 立大 1'54"11
 5 庄司 貴紀 駿河大 1'54"32
 6 前川 優月 東国大 1'54"77
 7 神田 滉人 上武大 1'55"33
 8 河合 正貴 東工大 1'57"25

男子2部 1500m

決勝

1 生方 敦也 青学大 3'50"76
 2 宮平 健太郎 日薬大 3'51"02
 3 前川 優月 東国大 3'51"47

4 斎藤 優	上武大	3'52"02
5 大谷 智希	明学大	3'52"50
6 斎藤 慎	帝京大	3'52"74
7 湯原 慶吾	青学大	3'52"85
8 松田 岳大	青学大	3'53"14

男子2部 5000m 決勝

1 Ledama Kisaisa	桜美大	13'49"86
2 小山 直城	東農大	14'01"23
3 浦野 雄平	国學大	14'04"51
4 橋詰 大慧	青学大	14'06"28
5 長谷川 柊	専大	14'07"05
6 Titus Wambua	武学大	14'11"14
7 山藤 篤司	神大	14'13"49
8 James Bunuka	駿河大	14'15"81

男子2部 10000m 決勝

1 Ledama Kisaisa	桜美大	28'26"94
2 Simon Kariuki	日薬大	28'52"23
3 Workneh Derese	拓大	29'16"77
4 鈴木 墨人	青学大	29'20"84
5 小山 直城	東農大	29'24"01
6 土方 英和	国學大	29'25"22
7 山藤 篤司	神大	29'29"83
8 James Bunuka	駿河大	29'32"55
11 近藤 秀一	東大	29'41"74

男子2部 ハーフマラソン 決勝

1 Simon Kariuki	日薬大	1:03'09
2 畔上 和弥	帝京大	1:03'49
3 横井 裕仁	帝京大	1:04'06
4 大森 樹	上武大	1:04'59
5 竹石 尚人	青学大	1:05'10
6 安田 共貴	神大	1:05'11
7 堀合 大輔	駒大	1:05'26
8 有馬 圭哉	中学大	1:05'27
39 近藤 秀一	東大	1:08'22

男子2部 110mH**決勝(+3.4)**

1 栗城 アンソニー	国武大	13"57
2 井口 貴文	立大	13"82
3 石田 トーマス	東国武大	13"91
4 屋宜 孝志	駿河大	13"97
5 高橋 聖矢	国武大	14"09
6 中野 昂	青学大	14"19
7 若山 陽	駿河大	14"20
8 山本 恭平	学習大	14"21

男子2部 400mH**決勝**

1 向井 頌之	大東大	51"62
2 吉田 京平	東学大	51"72
3 後藤 レンズダレル	駿河大	51"91
4 田邊 ジョー	駿河大	52"52
5 吉田 慶次郎	大東大	52"93
6 須藤 健	群大	53"26
7 井上 大海	国武大	54"35
8 尾崎 康太	千葉大	55"53

男子2部 3000mSC**決勝**

1 荻野 太成	神大	8'52"27
2 吉田 光汰	中学大	8'55"38
3 西方 大珠	神大	8'56"15
4 鈴木 天大	東国大	8'57"20
5 高橋 翔也	中学大	9'00"44
6 大西 峻平	駒大	9'02"89
7 原田 和輝	東国大	9'04"71
8 古川 舜	亜大	9'05"78

男子2部 10000mW 決勝

1 坂崎 翔	平国大	41'51"95
2 上田 俊希	東学大	42'49"27
3 井上 浩輔	平国大	42'52"34
4 後藤 潤平	東大	43'33"98
5 井元 太二	防大	43'34"06
6 青山 福泉	東学大	44'07"17

7	河野 樹	一橋大	44'11"63
8	滝沢 大賀	平国大	44'21"63
11	堀江 駿	東大	45'19"58
14	千菊 智也	東大	45'45"95

男子2部 4×100mR**予選(4組1着+4)**

3	東大	小島—阿久津—井上—木下	40"89
---	----	--------------	-------

決勝

1	駿河大	羽尾—名倉—下里—若林	40"17
2	国武大	大久保—外川—工藤—松井	40"25
3	作新大	檀淵—橋本—茂呂—坂本	40"31
4	東農大	白石—青柳—漣—山縣	40"70
5	東学大	竹澤—増田—直井—狩野	40"72
6	ウェルネス大	岸—関口—柿沼—斎藤	40"83
7	東大	小嶋—阿久津—井上—木下	41"03
8	東経大	丸山—武本—吉田—吉田	46"47

男子2部 4×400mR**予選(5組1着+3)****2組**

東大	小嶋—伊藤—坂口—井上	DQ*R4
----	-------------	-------

決勝

1	駿河大	小濱—工藤—平井—若林	3'09"52
2	東経大	村山—山田—吉田—星野	3'10"48
3	立大	西田—飯嶋—小野瀬—坂井	3'12"74
4	東農大	眞壁—大坪—坏—青柳	3'12"85
5	東学大	池内—吉田—杉山—荒井	3'14"65
6	ウェルネス大	松本—柿沼—河井—會田	3'15"17
7	聖学大	小山—井古田—大崎—浅川	3'16"12
8	成蹊大	井ノ川—山根—田村—坂本	3'18"59

男子2部走幅跳 決勝

1	秋山 翔飛	国武大	7m56(+1.2)
2	外川 天寿	国武大	7m52(+0.7)
3	高橋 武	玉川大	7m39(+0.9)
4	海老沼 勝輝	駿河台大	7m35(+0.5)
5	檀淵 和馬	作新学大	7m34(+0.9)

6	坂井 公亮	東経大	7m30(+1.0)
7	磯部 晃太郎	都留文大	7m21(+2.3)
8	齊藤 聖人	明海大	7m19(+2.2)
17	栗原 怜也	東大	6m85(+1.6)
20	木下 秀明	東大	6m75(+1.1)

男子2部走高跳 決勝

1	鈴木 智成	国武大	2m06
2	高良 留佳	国武大	2m06
3	杉本 丞	立大	2m03
4	久保木 春佑	東学大	2m03
4	板東 琉太	立大	2m03
6	能手 宣拓	平国大	2m03
7	佐藤 日彦	郡大	2m03
7	浦山 和也	駿河台大	2m03

男子2部棒高跳 決勝

1	三宅 功朔	東大	5m10
2	石橋 和也	清和大	5m00
2	篠塚 祥喜	清和大	4m90
4	野村 翔太	国武大	4m80
5	南雲 海哉	千商大	4m70
6	木内 智也	茨城大	4m70
7	小林 賢佑	清和大	4m50
8	岩川 天羽	千商大	4m50

男子2部三段跳 決勝

1	齋藤 勇太	作新大	16m08(+1.3)
2	伴 拓朗	聖学大	15m59(+2.2)
3	横森 友郎	大東大	15m25(-0.3)
4	平川 雄大	東経大	15m18(+1.8)
5	窪田 章吾	東学大	15m18(+1.9)
6	吉田 智也	国武大	15m07(+2.7)
7	木下 秀明	東大	14m93(+0.9)
8	ムーアアレクサンダー 海	東学大	14m93(+1.6)
24	平木 基人	東大	14m13(+3.6)
26	星野 祐希	東大	14m04(+1.2)

男子2部砲丸投 決勝

1	栗本 恭宏	東学大	14m87
---	-------	-----	-------

2	船越 龍馬	ウェルネス大	14m20
3	窪田 達也	上武大	14m12
4	小西 風生	駿河台大	13m58
5	田口 尚輝	桐蔭大	13m49
6	大久保太智	国武大	13m42
7	萩原 怜	山梨大	13m34
8	岩井 圭己	北里大	13m19
<hr/>			
30	八木澤 光大	東大	10m39

男子2部円盤投 決勝

1	塩畑 亮佑	国武大	43m65
2	唐川 泰成	国武大	43m35
3	山本 翔也	国武大	40m91
4	船越 龍馬	ウェルネス大	40m38
5	品田 功稀	芝浦工大	39m79
6	畠 純也	学習院大	38m23
7	小林 駿祐	芝工大	37m41
8	小濱 開	首都大	36m82
<hr/>			
15	佐竹 俊哉	東大	33m46

男子2部やり投 決勝

1	中浦 凌馬	茨城大	67m38
2	佐藤 悠樹	東経大	62m98
3	脇坂 強暉	国武大	62m19
4	小川 健太	東経大	62m10
5	塚田 晃魁	平国大	60m30
6	田中 佑資	一橋大	59m67
7	河内 敦登	ウェルネス大	59m09
8	坂梨 康太	防大	59m02

男子2部ハンマー投 決勝

1	飯嶌 将治	国武大	58m50
2	柴野比 ホセ	上武大	55m96
3	豊澤 章汰	国武大	55m11
4	石島 和弥	上武大	53m76
5	高林 巧	国武大	51m86
6	樫又 洋助	芝浦工大	47m35
7	宮崎 柊	上武大	46m97
8	田島 裕貴	平国大	41m96

男子2部十種競技 決勝

1	中臣 貴英	国武大	6703
2	川畑 夏唯	千商大	6454
3	小坪 聖人	東学大	6373
4	北村 一真	東学大	6315
5	松浦 岳	立大	6132
6	荻野 隼	電通大	5824
7	村井 輝	東大	5694
	100m	10"96(-0.7)	
	走幅跳	6m71(+1.1)	
	砲丸投	9m42	
	走高跳	1m60	
	400m	50"66	
8	岩切 魁人	千商大	5675

総合得点

1位:	流通経済大学	90点
2位:	大東文化大学	79点
<hr/>		
3位:	駿河台大学	72点
4位:	作新学院大学	37.16点
5位:	日本ウェルネススポーツ大学	37点
6位:	神奈川大学	31.66点

女子1部800m**予選(4組3着+4)****1組**

3	高石 涼香	東大	2'12"37
---	-------	----	---------

準決勝(2組3着+2)

4	高石 涼香	東大	2'10"92
---	-------	----	---------

決勝

1	池崎 愛里	順大	2'07"42
2	杉山 香南	順大	2'08"13
3	松本奈々子	筑波大	2'09"48
4	竹内 まり	早大	2'10"33
5	朝日 春瑠	日体大	2'10"82
6	菊池 梨紅	順大	2'13"23
7	高石 涼香	東大	2'13"52
8	戸谷 温海	山学大	2'16"78

男子3部 10000mW 決勝

- | | | | |
|---|-------|------|----------|
| 1 | 菅浪 裕也 | 順大院 | 43'06"51 |
| 2 | 佐藤 高嶺 | 筑波院 | 45'39"84 |
| 3 | 高橋 直己 | 東学大院 | 45'49"31 |
| 4 | 奥野 哲弥 | 筑波大院 | 48'24"59 |
| 5 | 櫻井 悠也 | 東大院 | 48'49"58 |

男子3部砲丸投 決勝

- | | | | |
|---|--------|------|-------|
| 1 | 鵜澤 祐聖 | 横国大院 | 12m04 |
| 2 | 岡村 也寸志 | 電通大院 | 11m08 |
| 3 | 加藤 輝仁 | 東大院 | 10m93 |

男子3部ハンマー投 決勝

- | | | | |
|---|-------|-----|-------|
| 1 | 奥村 匡由 | 流経院 | 63m89 |
| 2 | 松原 拓矢 | 日大院 | 63m16 |
| 3 | 岡野 敬史 | 順大院 | 58m41 |
| 4 | 鍵本 直人 | 東大院 | 40m18 |

5. 自己記録更新者一覧4/21.22 第262回日本体育大学長距離競技会

- | | | |
|-------|----------|----------|
| 800m | 坂口諒(4年) | 1'55"12 |
| 800m | 升野裕史(4年) | 2'07"59 |
| 1500m | 小林龍史(4年) | 4'14"98 |
| 5000m | 森本祥之(3年) | 17'12"63 |
| 5000m | 岩崎瞭介(4年) | 15'38"81 |
| 5000m | 大庭帆貴(2年) | 15'47"10 |

5/3,4 第23回富山カップ陸上競技大会

- | | | |
|------|----------|-------|
| 400m | 岩崎誠倫(2年) | 51"11 |
|------|----------|-------|

5/4 第2回順天堂大学競技会

- | | | |
|---------|----------|----------|
| 3000mSC | 藤原ゆか(4年) | 12'02"88 |
|---------|----------|----------|

5/5 第3回順天堂大学競技会

- | | | |
|---------|----------|---------|
| 3000mSC | 大庭帆貴(2年) | 9'52"25 |
| 3000mSC | 栗山一輝(3年) | 9'47"72 |

5/5 2018水戸招待陸上兼水戸市陸上競技大会

- | | | |
|------|----------|---------|
| 800m | 高石涼香(4年) | 2'11"13 |
|------|----------|---------|

5/5,6 第2回国土舘大学競技会

- | | | |
|---------|----------|----------|
| 400m | 伊藤康裕(3年) | 50"64 |
| 10000mW | 後藤潤平(3年) | 44'16"76 |

5/5,6 第104回日本体育大学陸上競技会

- | | | |
|------|----------|-------------|
| 200m | 斎藤嘉紀(4年) | 23"64(-1.7) |
| 400m | 坂口諒(4年) | 50"81 |
| 400m | 斎藤嘉紀(4年) | 53"40 |

5/6 第2回日本大学競技会

- | | | |
|------|-----------|-------------|
| 100m | 井上昂(2年) | 10"77(+1.0) |
| 100m | 木崎健太(2年) | 11"38(-0.1) |
| 100m | 岸田祐馬(2年) | 11"43(-0.1) |
| 100m | 玉木諒秀(2年) | 11"61(+1.7) |
| 200m | 井上昂(2年) | 21"90(+1.4) |
| 200m | 玉木諒秀(2年) | 23"78(+0.3) |
| 200m | 野々田聖一(4年) | 24"43(+1.1) |
| 円盤投 | 田口広太郎(4年) | 32m27 |

5/12.13 第263回日本体育大学長距離競技会

- | | | |
|-------|-----------|---------|
| 800m | 八ツ本真司(3年) | 2'01"01 |
| 1500m | 榊村浩行(2年) | 4'07"57 |
| 1500m | 古賀淳平(3年) | 4'07"96 |

5/24~27 第97回関東学生陸上競技対校選手権大会

- | | | |
|---------|----------|-------------|
| 100m | 村井輝(3年) | 10"96(-0.7) |
| 400m | 村井輝(3年) | 50"66 |
| 800m | 高石涼香(4年) | 2'10"92 |
| 1500m | 村井輝(3年) | 5'07"39 |
| 10000mW | 後藤潤平(3年) | 43'33"98 |

10000mW 千菊智也(2年) 45'45"95
 円盤投 村井輝(3年) 21m95
 十種 村井輝(3年) 5694点

6. 2017年度 部内五傑

(順位 氏名 (学年) タイム 日付)

男子 100m

1 井上昂(2年) 10"77(+1.0) 5/6
 2 阿久津大貴(3年) 10"90(+0.7) 5/6
 3 村井輝(3年) 10"96(-0.7) 5/24
 4 伊藤康裕(3年) 11"28(+0.2) 5/5
 5 影山優輔(3年) 11"32(+1.2) 5/6

男子 200m

1 井上昂(2年) 21"90(+1.4) 5/6
 2 近藤哲太(2年) 23"34(-0.7) 5/6
 3 近藤弘樹(3年) 23"56(+0.7) 4/8
 4 斎藤嘉紀(4年) 23"64(-1.7) 5/6
 5 加藤正凌(4年) 23"68(+0.3) 5/6

男子 400m

1 小嶋健太郎(4年) 50"20 4/30
 2 伊藤康裕(3年) 50"64 5/5
 3 村井輝(3年) 50"66 5/25
 4 坂口諒(4年) 50"81 5/5
 5 松田光陽(3年) 51"11 5/5
 5 岩崎誠倫(2年) 51"11 5/3

男子 800m

1 坂口諒(4年) 1'55"12 4/21
 2 小野康介(3年) 1'55"60 4/21
 3 近藤秀一(4年) 1'56"56 3/17
 4 伊藤龍一郎(4年) 1'58"81 3/17
 5 八ツ本真司(3年) 2'01"01 5/12

男子 1500m

1 近藤秀一(4年) 3'59"20 4/7
 2 油井星羅(4年) 4'07"50 3/18
 3 榭村浩行(2年) 4'07"57 5/12

4 古賀淳平(3年) 4'07"96 5/12
 5 栗山一輝(3年) 4'08"62 3/18

男子 5000m

1 近藤秀一(4年) 14'12"17 4/7
 2 松本郁也(2年) 15'26"77 3/31
 3 阿部飛雄馬(3年) 15'27"87 4/7
 4 岩崎瞭介(4年) 15'38"81 4/22
 5 遠藤正陽(3年) 15'43"82 3/18

男子 10000m

1 近藤秀一(4年) 29'41"74 5/27
 2 箕輪創太(3年) 33'57"57 3/23
 3 古賀淳平(3年) 35'06"47 4/22
 4 一柳里樹(3年) 36'25"14 3/23

男子 110mH

1 本田洋平(2年) 15"90(+1.0) 5/5
 2 村井輝(3年) 16"44(-5.1) 5/25

男子 400mH

1 松田光陽(3年) 55"88 5/6

男子 3000mSC

1 栗山一輝(3年) 9'47"72 5/5
 2 大庭帆貴(2年) 9'52"25 5/5
 3 古賀淳平(3年) 10'04"55 3/23

男子 10000mW

1 後藤潤平(3年) 43'33"98 5.26
 2 堀江駿(4年) 45'19"58 5.26
 3 千菊智也(2年) 45'45"95 5.26

男子 4×100mR

1 小嶋(4)-阿久津(3)-井上(2)-木下(4) 40"89 5.24
 2 小嶋(4)-阿久津(3)-井上(2)-木下(4) 41"03 5.25
 3 村井(3)-阿久津(3)-井上(2)-伊藤(3) 41"90 4.7

男子 4×400mR

1 小嶋(4)-岩崎(2)-近藤(2)-伊藤(3) 3'28"37 4.7

男子走幅跳

1 木下秀明(4年)	7m12(-1.2)	4/7
2 栗原怜也(2年)	6m85(+1.7)	5/26
3 村井輝(3年)	6m72(+3.8)	5/6
4 平井智史(3年)	6m53(-1.3)	4/7
5 藤原暉(3年)	6m46(+1.1)	4/7

男子三段跳

1 木下秀明(4年)	14m93(+0.9)	5/26
2 平木基人(4年)	14m13(+3.6)	5/26
3 原澤龍平(3年)	13m91(-0.2)	5/6
4 毛利冬悟(4年)	13m80(+1.3)	4/6
5 平井智史(3年)	13m48(+1.3)	5/6

男子走高跳

1 赤塚智弥(3年)	1m95	4/7
2 木下秀明(4年)	1m84	5/6

男子棒高跳

1 三宅功朔(3年)	5m10	5/27
2 村井輝(3年)	3m30	5/25

男子砲丸投

1 八木澤光大(4年)	10m98	4/7
2 村井輝(3年)	9m42	5/25

男子円盤投

1 佐竹俊哉(4年)	33m46	5/26
2 田口広太郎(4年)	32m27	5/6
3 村井輝(3年)	21m95	5/25

男子やり投

1 中村優太(2年)	41m64	4/7
2 石田駿平(2年)	40m74	4/7
3 村井輝(3年)	39m67	5/25
4 友藤彰紀(2年)	26m01	4/7

女子 800m

1 高石涼香(4年)	2'10"92	5/26
------------	---------	------

女子 1500m

1 高石涼香(4年)	4'35"34	3/24
2 藤原ゆか(4年)	5'01"15	4/21
3 荒木玲(4年)	5'20"17	5/12

女子 3000m

1 藤原ゆか(4年)	10'37"31	5/12
------------	----------	------

女子 3000mSC

1 藤原ゆか(4年)	12'02"88	5/4
------------	----------	-----

女子走幅跳

1 内山咲良(3年)	5m53(+1.4)	5/6
------------	------------	-----

7. 2018年度 東大記録更新者一覧

(種目 氏名 (学年) タイム 日付)

800m 高石涼香(4年) 2'10"92 4.22

8. 主務より**8.1 応援 OB・OG 紹介**

5月24～27日に相模原麻溝公園競技場で行われました第97回関東学生陸上競技選手権大会に際し、応援に駆けつけてくださいましたOB・OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

昭和51年卒 田上静之

昭和54年卒 一色聡

昭和54年卒 中谷敬二

昭和58年卒 浅野浩二

昭和61年卒 藤村陽

昭和63年卒 寺田秋夫

平成3年卒 小野満

平成3年卒 馬場勝也

平成3年卒 宮崎昭彦

平成6年卒 井上宗宣

平成15年卒 高梨幹生

平成20年卒 月崎竜童
 平成22年卒 日下桃子
 平成23年卒 近藤堯之
 平成23年卒 園部竜也
 平成23年卒 渡邊拓也
 平成26年卒 増田結心
 平成26年卒 松野智成
 平成28年卒 小南直翔
 平成28年卒 八木慶子
 平成29年卒 阿部龍太郎
 平成29年卒 鍵本直人
 平成29年卒 加藤騎貴
 平成29年卒 軽部智
 平成29年卒 櫻井悠也
 平成29年卒 須江絢子
 平成29年卒 西村智宏
 平成29年卒 深澤竜太
 平成29年卒 福島洋佑
 平成29年卒 箕島頌
 平成29年卒 森本淳基
 平成30年卒 伊藤幸乃
 平成30年卒 遠藤幸生
 平成30年卒 小田貴大
 平成30年卒 加藤輝仁
 平成30年卒 後藤裕瑛
 平成30年卒 岸康太
 平成30年卒 須藤克誉
 平成30年卒 寶田雅治
 平成30年卒 土井雅人
 平成30年卒 富原健太
 平成30年卒 中島盛喜
 平成30年卒 長久将
 平成30年卒 萩尾公貴
 平成30年卒 早川航平
 平成30年卒 棟重賢治

ご多忙の中応援にお越しくございましたこと、部員一同、心より御礼申し上げます。

8.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

6.9(土)	国公立戦@上柚木
6.15(金)～6.17(日)	個人選手権@平塚
6.30(土)	OBOG 戦
7.8(土)	四大戦@大井
7.28(土)～7.29(日)	七大戦@札幌厚別公園
8.26(日)	一橋戦@駒場
9.6(金)～9.9(日)	日本 I.C. @等々力
9.24(月祝)* 予定	京大戦@山城
10.13(土)	箱根駅伝予選会@立川

8.3 連絡先

連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二

TEL : 03-5370-9370

Mail : Seiji_Saito@suntory.co.jp

学生主務：原島敏知

〒167-0054 東京都杉並区松庵 2-9-16

TEL : 090-8848-7525

Mail : shumu@uttf.org

学生主務補：荒木玲

Mail : uttf.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG 向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.uttf.org>

学生主務 原島敏知

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の大島までお送り下さい。

部便り主任 大島知之

(Mail: uttfbdyri2017@gmail.com)